

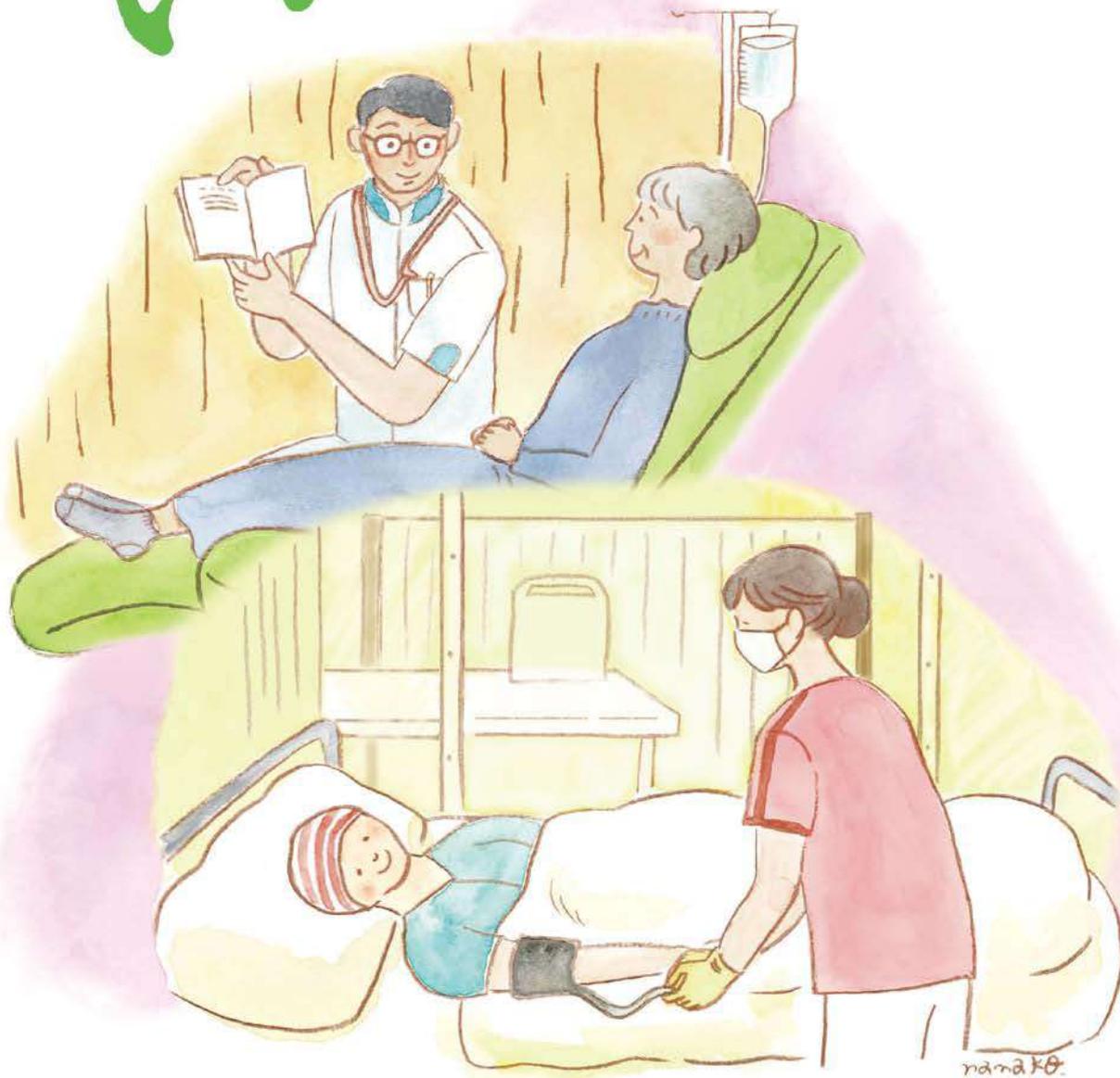
らふ

LI FE

松下記念病院

Vol.52

冬号
2020



特集
がん

胃がん

Topics

がん対談

がん治療のスペシャリストたち

診療科
見学note

血液内科

● MATSUSHITA REPORT

血液内科患者会 ライフリレー
乳がん患者会 まっぴ〜ズ

● My doctor

松下記念病院
登録医の紹介

● ホストピ

がん相談支援室(がん相談支援センター)

近年増加傾向にある 胃がん

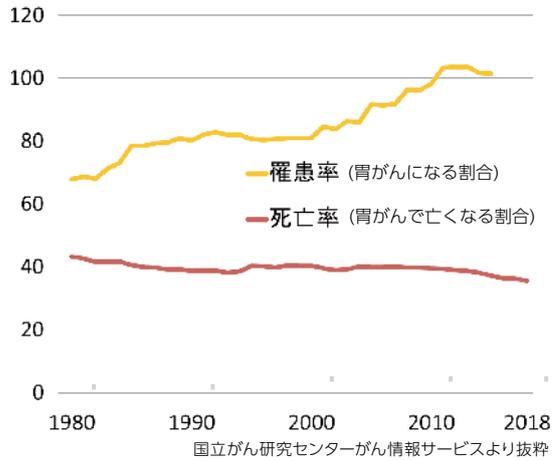
身体の負担を少なく“楽に治す”をめざします!!

“胃がん”の状況

胃がんは大腸がんに次いで日本人に多いがんであり、およそ男性の9人に1人、女性の19人に1人が一生に一度は胃がんにかかると言われています。しかし、早期発見によって治りやすいがんであり、超高齢社会のため胃がんになる方が増えているにもかかわらず、胃がんで亡くなる方は減ってきています。

平成30年の全国集計によると、胃がんと診断された方の約27%が内視鏡切除、約22%が外科切除を受けておられます。早期発見なら、内視鏡切除が多く、進行していれば外科切除が必要になります。転移があるなどで切除ができない場合は、薬物療法で予後の改善をめざします。

胃がんの罹患率と死亡率 (人/人口10万人当たり)



胃がんの原因と予防

胃がんの原因のほとんどがピロリ菌と言われており、ピロリ菌除菌によって胃がんを予防できると考えられています。除菌後も胃がんのリスクは残るため、毎年の上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)が勧められています。

胃がんの治療

胃がんの治療には、内視鏡治療、手術、薬物療法などがあります。

治療法は、がんの進み具合(病期)、全身状態、年齢、合併するほかの病気などを考慮して決定します。

1 内視鏡での診断と治療

胃がんの予防と早期発見のために、まず胃カメラを受けていただくことが大切です。ピロリ菌感染が判明した場合は、胃がんの予防のために除菌療法をお勧めします。胃カメラを受けることに抵抗を感じる方のために、経鼻内視鏡(鼻から入れられる細い胃カメラ)や鎮静(点滴で麻酔をしながらの検査)などで楽に検査を受けていただけるよう取り組んでいます。

内視鏡治療は、おなかを切らずに胃カメラで胃の粘膜病変部だけを切除する治療であり、胃は元通り残りますので、治療後の回復も早く、食生活への影響が少ない治癒が望めます。



内視鏡検査(胃カメラ)

2 手術治療

内視鏡での治療の適応外で、遠隔(肝臓など)転移がない患者さまには手術治療を行います。手術はがんの場所や大きさなどによって、胃を全部摘出(胃全摘術)、出口側の胃を2/3切除(幽門側胃切除術)、入り口側の胃を1/2切除(噴門側胃切除術)などの術式が選ばれます。

早期の胃がんであれば95%以上の患者さまが根治することが可能ですが、大きな腫瘍であったり、リンパ節転移を多く認めるような腫瘍に関しては、手術を施行しても約半数の患者さまが術後に再発します。よって再発率を下げるために、手術の前後に薬物療法を併せて行います。

現在、当院ではかなり進行した胃がん患者さまを除いて、胃がん手術の約70%で腹腔鏡手術を行います。腹腔鏡手術は従来の開腹手術にくらべ低侵襲[※]で、術後の痛みの軽減や早期の社会復帰が可能となります。

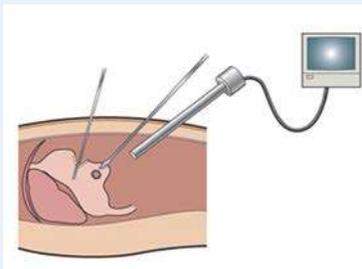
早期発見は、がんを治すことや低侵襲な治療につながるため、とても重要になります。



※低侵襲…小さな傷でできるだけ体に負担がかからない手術としての腹腔鏡手術を積極的に導入し、高齢の患者さまにも安全で合併症の少ない外科治療を行います。

腹腔鏡手術

おなかに小さな穴を開けて、そこから腹腔鏡の小型カメラと切除器具を入れ、モニターで画像を見ながら、手術を行います



術後の創は小さく目立ちません

3 薬物治療(抗がん剤治療)

全身にがんが転移(遠隔転移)してしまっている患者さまには、抗がん剤による薬物治療を行います。この5年ほどで分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など新しいタイプの抗がん剤も含めて、さまざまな抗がん剤が胃がんでも使用できるようになりました。がんによる症状が現れるのを遅らせ、予後を改善させることをめざします。

以前は入院での抗がん剤治療が一般的でしたが、現在は外来化学療法室に通院して治療を行うことがほとんどであり、仕事や日常の生活を維持しながら治療を継続することが可能になっています。

チーム医療

当院での治療では、医師だけでなく、認定看護師や専門薬剤師、栄養士、リハビリ技師などさまざまな職種が協力し、一つのチームとして、患者さまにできる限りの治療を提供いたします





がん治療のスペシャリストたち 特別対談企画!

.....panelist.....

看護部 角免 真由子
 リハビリテーション療法室 熊野 宏治
 患者支援連携センター がん相談支援室 小林 佳央里
 栄養指導室 石原 ゆうこ
 放射線技術室 浦田 大軌
 薬剤部 橋本 恵梨花
 ナビゲーター 松本 晴美

松本 まずはじめに、当院では、がんに対する取り組みに重点的に力を入れております。院内の多くの職員が、その取り組みを支えてくださっている中で、今日は特別に全国的にも希少な資格を有する方たちにお越しいただきました。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

では、さっそくインタビューをしていききたいと思います。普段のがん治療の中で、患者さまからどのような相談がありますか？

がんと闘う上で、 多く抱える悩みやご相談

小林 がん相談支援員に多く寄せられる相談は治療費に関する経済的な相談です。テレビコマーシャルでがんの治療費が高額になったという情報を耳にされ「保険が効かないのか」と不安になられる方も多く、高額療養費制度等公的制度の説明やご自身が加入されている生命保険会社へ契約内容をご確認される等ご案内しています。

また、がんに罹患しても最期まで自宅で生活するための訪問診療や訪問看護等の相談、お食事に関するご相談なども多く、相談内容に応じて多職種にお取次ぎしています。



全作業療法士の
0.01%

リハビリテーション療法室

熊野 宏治 (くまの こうじ)

がん専門作業療法士/全国で11名

(全作業療法士 89,717人のうち0.01%しかいない)

◆ Speciality

がんと闘うための体力づくりを中心に、罹患した部位別で必要なリハビリを実施
 例えば、乳がん・首の手術では肩を上げやすくし、進行がん終末期の方の身体的な苦痛・精神的苦痛を和らげるなど

石原 食事栄養については、がん専門の管理栄養士として、患者さまからたくさん聞かれますが、自己流の食事制限をしている方が何を食えばいいかわからなくなるという相談が多いです。

松本 そのあたりは、リハビリの中でも多くご相談をいただくとお聞きすることが多いですが？

熊野 そうですね。がん専門作業療法士としてリハビリをする中でそういったご相談の声も多いです。また、足のむくみがあると訴えられる患者さまは、単純に疲れや太ったからと食生活との関連性と自覚がないことが多いので、こちらから食べ物や生活について聞き取りをするようにしています。

石原 外来で化学療法を受けられる方からは、体重の減少や食欲不振の相談もかなり多いです。しかし過度に心配して無理な食事制限で栄養が行き届いていないケースも見られます。

例えば、野菜やおかゆが体に優しいと思って、そればかり食べることでたんぱく源である肉や魚、卵などが不足しているなどの事例があります。がん治療中でもバランスのとれた食事を摂ることが大切ですので正しい知識を伝えるのも私たちの仕事です。

角免 私は、がん化学療法認定看護師をしています。石原さんの言う通りで、抗がん剤治療をするというだけで、吐き気がすごいとか髪の毛が抜けるとかの心配をされるので、まずは正しい知識を提供することに努めています。

治療薬でも、今はいろいろと選べるようになっており、例えば手先を使う仕事であれば、治療後も仕事が続けられるように手に副作用の出ない薬を選ぶことができますので、ご心



全栄養士の
0.4%

栄養指導室

石原 ゆうこ (いしはら ゆうこ)

がん病態栄養専門管理栄養士／全国で 999 人

(全栄養士 244,487人のうち 0.4%しかいない)

病態栄養に関する知識のある管理栄養士が、医療機関である期間勤務し、がん患者さまに1000時間以上対応したことが条件として必要

◆ Speciality

複数の疾患（糖尿病や心疾患等）を抱えながらがん罹患する場合があります。その段階ごとでの栄養管理を実施。食べることや食事を味わうことが生きる喜びや活力に繋がるので、治療のステージとタイミングを合わせながら「最後まで口からごはんを食べられる」よう支援

味覚異常があっても食事の喜びが感じられるよう献立に工夫を凝らす

配なことを気兼ねなくご相談いただければと思っております。

松本 食事という側面からも様々な悩み解決をしていく必要があるのですよね。食事と言えば、栄養補助食品とかも多く活用されている方もいるとお聞きしますが、そのあたりはいかがでしょうか？

橋本 栄養補助食品やサプリメントを飲んで良いかといった相談も多いです。その際には、今飲んでいる薬や他の病院でいただいている薬との安全性を見ます。その上で、石原さんや角免さんを中心として管理栄養士や看護師、主治医とも相談しながら、効果的な補助食品やサプリメントを模索していきます。

松本 がんの治療である化学療法の話は先ほど出てきましたが、放射線治療の方ではどのような悩みがありますか？

浦田 圧倒的に多いのは、放射線の安全性についてですね。被ばくされることで、他の細胞までがん化するのではないかなど不安に思われることもあるようですが、そもそも正常組織は、がん細胞ほどには放射線の影響を強く受けません。

放射線治療による副作用の心配もありますが、それと正常組織への影響とは別物です。風邪で薬を飲んでも副作用の心配があるのと同じで、基本的には「治療する」という過程において副作用は起きうる可能性があります。

補足ですが、放射線治療は大きく分けると、がん細胞の根絶をめざすものと、骨転移などによる痛みなどの症状の緩和をめざすものが



患者支援連携センター がん相談支援室

小林 佳央里 (こばやし かおり)

がん専門相談員

◆ Speciality

いろんな制度があり、患者さまひとりひとり状況が異なるため、患者さまに合った支援制度をご提案する。そのため、常に法律の改正や制度変更目配りをし、勉強を重ねる。多職種の協力を得て、患者さまやご家族が望まれる生活が送れるようにサポート

ありますので、目的に応じて説明する内容も変えながら不安が生まれないように努めています。

熊野 浦田さんのおっしゃることはよくわかります。不安に対して、どう接していくかが私たちのもうひとつの役割だと思っています。その中で、特に努めているのが「患者さまが言いたいこと」「患者さまが伝えたいこと」に耳・目・心を傾けて真摯な姿勢で話を聴く「傾聴」というコミュニケーションです。

多くの患者さまは精神的にダメージを受けていることが多いので、しっかりと話を聞くことで安心感や精神的な満足から、がん治療に前向きに取り組む意欲を持ってもらい、日常生活をより良いものにしていただけるように努めています。

さらにはお話しをお伺いする中で、体力が落ちたと感じられていれば身体を動かすリハビリに主力を置き、しびれの訴えがあればマッサージに主力を置くなど、聴くことによって支援の仕方が大きく変わってくるのも事実です。

松本 なるほど。いろいろな悩みに真剣に耳を傾けたり、不安の解消に努めながら「がんと一緒に闘う」という皆さんの思いやりや優しさがすごく伝わってきました。

皆さんだけでなく他のスタッフもそういった努力をされていると思いますが、総合的に見てがんに対する取り組みで当院の良いところはどこにあると思いますか？

がんに対する取り組みで当院の良さ

角免 がんの特化した専門スタッフの人数がとて多い点だと思います。数が多いだけじゃ

なく横の繋がりがよく、相談しやすい。みんな仲良しでコミュニケーションが取れているので、一致団結していろんなことに取り組むことが出来るのがすごいと思います。

浦田 本当にそうですね！医療は、横の繋がりが大切なので、そのあたりがしっかり出来ているのが良いです。特に治療後の経過や報告・フォローなど情報共有は素晴らしいと感じます。あの患者さまのことなんだけど…と話しかけるとまだちょっとしか話してないのにすぐに分かってもらえることないですか？

松本 そうそう！少し相談してもすぐにその患者さまのことがわかってきて、意気投合できたいでテンション上がります（笑）

熊野 本当にみんな丁寧で優しいですよ！がんの予防から緩和まで幅広い分野でそれぞれ専門職がいるから、どの分野でも相談しやすいし、トータルでがんへ取り組めることはやっぱり大きいメリットですね。

小林 そういう意味でも、*腫瘍内科があるところも、患者さまにとっても我々医療者にとってもメリットが大きく、当院の強みだと感じています。専門の医師がいることで、院内セカンドオピニオンが可能となり、患者さまの診察費用の負担軽減や治療選択までの時間的な短縮が図れると思います。また、がんに精通したスタッフが、治療前～終末期、入院～退院後の生活を見据え意見交換ができるため、多職種で患者さまを支える体制が築けていると思います。

橋本 そうですね。主治医だけの偏る治療ではなく、いろんな専門職の人たちが、関わって



全看護師の
0.5%

看護部

角免 真由子（かくめん まゆこ）

がん化学療法看護認定看護師／全国で1,650名
（全認定看護師数21,048人の内7.8%しかいない。
全看護師数だと0.5%）

◆ Speciality

抗がん剤・分子標的薬剤（病気の原因となっているタンパク質などの特定の分子にだけ作用するように設計された治療薬）があり、ノーベル賞を取った免疫チェックポイント阻害薬などの新しい薬剤も考慮しながら、患者さまが安全に抗がん剤の治療がおこなえるよう、副作用対策や投与管理を行う

くれるので治療方法やその後の生活まで一番良いものを選べるのも魅力的ですよ。あとは、突然の患者さまのトラブルにもみんな協力的ですぐ対応してくれて感動しました！

松本 治療方法の話が出ましたが、そっちの観点からはどうでしょうか？

石原 治療で言うと、各分野で専門医が数多くいて、内視鏡・CT・MRIの検査から、手術、化学療法、放射線療法と多様な治療方法を選べるのは、患者さまやご家族にとっても心強いのではないのでしょうか。

それに*ACPの考え方に基づいて、患者さま自身が主体となって一緒にがん治療に前向きに取り組んでいるのはとても嬉しいです。

* 腫瘍内科…… 一般内科の専門領域で、抗がん薬治療の適応に関わらず、悪性腫瘍をもった患者さまの診療すべてを包括する診療科

* ACP(アドバンスケアプランニング)……将来の人生をどのように生活をして、どのような医療や介護を受けて最期を迎えるかを計画して、ご自身の考えを心づもりとしてご家族や近しい人、医療やケアの担当者とあらかじめ表しておく取り組み

角免 専門医の先生も患者さまの性格などで接し方をすごく考えているなと感じます。不安を与えないように、わざと感情をこめずに淡々と接したり、逆にすごくフレンドリーに接したり、思いやりを感じますね。

小林 同感です。患者さまへの接し方もそうですが、カルテを見ても治療経過や治療方針がわかりやすく明記されています。医師が今後の状態変化を予測し、早めに多職種へ介入依頼して下るため、患者さま・ご家族に考える時間（ゆらぎの時間）が提供でき、セラピストとして患者さまへの支援が行いやすいと感じることが多々あります。



全放射線技師の
4.3%

全放射線技師の
2.8%

放射線技術室

浦田 大軌（うらた だいき）

放射線治療専門技師／全国で1,993名

（全放射線技師 45,960 人のうち 4.3%しかいない）

放射線治療品質管理士／全国で1,323名

（全放射線技師 45,960 人のうち 2.8%しかいない）

◆ **Speciality**

放射線治療において、Novalis Tx（VARIAN）を活用し、病変部の大きさや形状にあわせてミリ単位の精度で制御しながら治療を行う

松本 ありがとうございます。それでは最後にがんと闘う患者さまにメッセージをお願いします。

がんと闘う患者さまへ

熊野 がんの早期発見や治療技術が進歩し、不治の病からがんと共に生きていく時代となってきたリハビリテーションの観点からは筋力体力の低下を防ぐ事で治療の完成率を上げることができます。しびれやむくみがあっても、工夫することで生活がしやすくなることがあります。何か困ったことがあれば、がん相談支援室にお越しください。

石原 がん治療では、体の栄養状態を良好に保つことがすごく大切なので日々の食事・一食一食を大事にすることがポイントです。食欲不振や味覚異常などの悩みはひとりで抱え込まずに気軽にご相談してください。

小林 患者さまのみならず、ご家族さまも「第二の患者さま」として、いろんな不安や悩みを持っておられるかと思います。がん告知から治療期・終末期と、そのステージごとに悩みや不安は変化します。さまざまな情報に振り回され、一人で考えると気持ちが塞ぎこんでしまうこともあると思います。気負いせず、お気軽にがん相談支援室にご相談ください。多職種で患者さまを支援していきたいと思っています。

角免 がん相談室で相談を受けるようになって、人それぞれの悩みがあり、経済的なこと、治療の副作用のこと、家族関係のこと、悩みをなか

なか相談できない方が多いです。本当に些細なことでもご相談していただければと思います。

浦田 放射線治療においても、医師や看護師など多くの専門職でチームを組んでしっかりとサポートさせていただきます！ご安心ください！

橋本 がんに関する資格を持っている薬剤師は、全部で5名おります。外来化学療法でも常駐したり、病院規模に対しても多い人数で体制を整えていますので、不安に思うことがあればいつでも相談してください。

松本 皆様、たくさんのお話をありがとうございました。これからも当院ではがんへの取り組みを強化していきますので、安心して病院にご相談ください。どうもありがとうございました。



全薬剤師の
0.3%

薬剤部

橋本 恵梨花 (はしもと えりか)

外来がん治療認定薬剤師 / 全国で 935 名

(全薬剤師 311,289 人のうち 0.3%しかいない)

外来がん治療を安全に施行するための知識・技能を習得し、地域がん医療において、患者さまとその家族をトータルサポートできる薬剤師

◆ **Speciality**

薬物療法をされている患者さまに外来で副作用や体調等様々なことを相談し支援
また、当院だけでなく他の病院やかかりつけ医、保険薬局とも連携して薬物療法による治療方針などのマネジメントや提案などを行う

**当院は、「大阪府がん診療拠点病院」指定病院です。
がんと闘う全てのひとを応援します！**

| がんに関する認定資格者 (名) | | | |
|-----------------|---|---------------|---|
| がん化学療法看護認定看護師 | 3 | がん専門薬剤師 | 1 |
| がん性疼痛看護認定看護師 | 2 | がん病態栄養専門管理栄養士 | 2 |
| 緩和ケア認定看護師 | 1 | 呼吸療法認定士 | 4 |
| 乳がん看護認定看護師 | 1 | がん薬物療法認定薬剤師 | 2 |
| 手術看護認定看護師 | 1 | 外来がん治療認定薬剤師 | 3 |
| 緩和薬物療法認定薬剤師 | 1 | リンパ浮腫療法士 | 1 |

※呼吸療法認定士は、呼吸理学療法や吸入療法、酸素療法などの呼吸療法の的確な実施を行うスペシャリストです。

血液内科とは…

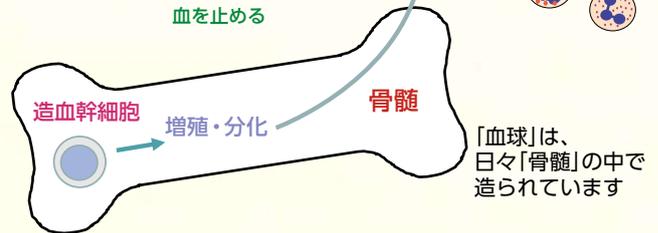
血液中をながれる白血球、赤血球、血小板などの細胞を「血球」といいます。血球や血を固める凝固因子の異常によっておこる病気を中心に診療する診療科です。

はたらく細胞

いろいろな白血球：
異物から体を守る



血小板：血を止める



清田 河田 和田部長 山根 先山

血液内科の

主な病気は…

- 感染症に関連した病気………伝染性単核球症、血球貪食症候群など
- さまざまな原因による貧血………悪性貧血、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血など
- 血が止まりにくくなる病気………特発性血小板減少性紫斑病、血友病など
- 血液がん 「血球」や血球のもとになる「造血細胞」のがん

病気の進みかたがゆっくりで穏やかなものから、非常に速くて激しいものまで、さまざまな種類があります。

* 「造血細胞」のがん

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群など

* 血球を作りすぎる病気

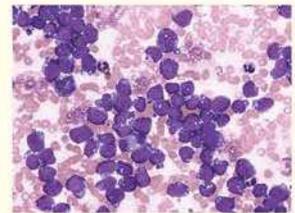
骨髄増殖性腫瘍：真性多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症など

* 「リンパ球」のがん

悪性リンパ腫

* 「形質細胞」のがん

など 多発性骨髄腫 など



こんな症状や場合に血液疾患が疑われます

- * 息切れ、動機、めまい、体のだるさ
- * 発熱、ひどい寝汗、原因もなく体重が減ってくる
- * 血がでやすく、止まりにくい（鼻血、歯ぐきの出血、皮膚に青あざがしやすい、など）
- * 首、わきの下、脚の付け根のあたりに「ぐりぐり」ができて、だんだん大きくなっている
- * 検診やかかりつけ医で血液検査値の異常を言われた

今回は、**頻度の多い血液がん**についてご紹介します。

悪性リンパ腫

リンパ球は、感染や異物などから体を守る「免疫システム」の中で、主要な役割を果たしています。このリンパ球ががん化した病気が悪性リンパ腫です。

血液がんのなかでは最も多く見られます。「ぐりぐり」（リンパ節の腫れ）ができたり、発熱、ひどい寝汗、体重減少などの症状が現われます。リンパ球にはたくさんの種類があるので、どのリンパ球ががん化したかによって、何十種類にも分かれます。またその種類によって、病気のすすみかたや予後（治りやすさ、治りにくさ）、治療薬が大きく違います。種類に応じて、抗がん剤やさまざまな新規薬剤によって治療します。

多発性骨髄腫

形質細胞は、細菌やウイルスなど体に入ってきた外敵を攻撃する、免疫グロブリンというたんぱくを作っています。この形質細胞ががん化（骨髄腫細胞）した病気です。

骨に病気をつくることが多いため、腰痛や骨折を起こし易くなります。また貧血を起こしたり、腎臓が悪くなったりします。以前から使用されている抗がん剤に加えて、近年、新規薬剤といわれるさまざまな種類の薬が増え、治療が大きく進みました。治療の方法が増えて、患者さまの病気のコントロールと生活の質（QOL）の向上に役立っています。当院の血液内科でも、それぞれの患者さまのご年齢や持病、生活環境などを考えて、より適応した治療を行っています。

血液内科の取り組みについて

当科では、学会などが推奨するガイドラインや、新しい知見をもとに、それぞれの患者さまとご家族さまにとってより良い治療を考え、提供していくように努めています。とくに血液がんは、治療の期間が長く、治療後も経過を慎重に見ていくことが必要になるケースが多い病気です。血液内科医、薬剤師、看護師、リハビリ技師、社会福祉士、管理栄養士などいろいろな職種によるチームでの医療を行い、また近隣の登録医の先生や連携施設病院とも協力して、患者さま、ご家族さまが安心して療養されるように努めています。

さらには、多施設共同臨床研究に積極的に参加することによって、本邦における最新の医療を提供し、更に新しい知見を造りだす一助となり、これからの医療に貢献することを心がけています。



無菌室

血液内科患者会 ライフリレー

血液内科医師の講演

血液内科患者会 ライフリレーとは？

ライフリレーは、当院に通院されている血液内科の患者さまとご家族の交流の場として2010年に設立いたしました。

血液疾患の患者さまは長期間にわたる治療によって、治療の副作用による身体のつらさや、長期間の入院生活による気持ちのつらさを抱えている方がたくさんいらっしゃいます。「自分だけがこんなにしんどいのかな」「この治療を乗り越えれば本当に病気はよくなるのだろうか」など、一人で悩みを抱えている方も少なくありません。

医療スタッフは、患者さまの悩みを少しでも軽減できるような関わりに努めていますが十分とは言えません。患者さま同士が交流を持ち、悩みを共有することで、「みんなが頑張っているから、自分も頑張ってみよう」と前向きになられ、つらい気持ちが少しでも楽になる場を提供できることを願ってこの会を開催しています。

ライフリレーでどんなことをしているのですか？

年に2回、春と秋に開催しています。

主な内容は、医療者による講演と患者さまの体験談の講話になります。

医療者による講演では、血液内科医師による「病気の概要や新しい治療」や、看護師による「副作用対策」や栄養士による「バランスのとれた食事」など、患者さまの知りたい情報を提供しています。

また、患者さまの体験談では、病気を知ったときのショックや絶望感、治療による副作用のつらさ、気が遠くなるような長期入院生活や再発の不安など赤裸々に語られます。

自分の病気をどのように受け入れ乗り越えてきたかといった話を聴くことで、闘病生活を前向きに考えられるようになるなど、患者会の開催を大きな励みとされている方も少なくありません。

患者さまの体験講話

- * ひとりで悩んでいるかた
- * 同じ病気の話や人の話を聞くことで、一人じゃないやんと
- * 自分の経験を話すことで、他の人の力になることが
- * ミニレクチャーでは、ちょっと役に立つ話を聞ける

乳がん患者会 まっぴ〜ズ



アロマキャンドル

乳がんで当院通院中の患者さま、 集まりませんか？

「乳がん」で手術をしたけれど再発が心配な方、ひとりで悩んでいる方、同じ乳がんの方の話を聞きたい方など乳腺外科では、乳がんで通院中の患者さま同士の交流の場を設けています。

『まっぴ〜ズ』誕生秘話



乳がん患者会の名前は、会に参加された方に名前を募集して、会で決定しました。

Matsushita Partner Ship 略して『まっぴ〜ズ』 松下記念病院に通院する乳がん患者さまたちが友好的に協力し合う場という願いを込めて命名してくれました。

この素敵なロゴマークも患者会に参加された方が考えてくれたものです。

まっぴ〜ズではどんなことをしてるんですか・・・

会は、年間2〜3回の開催です。不定期の開催ですが、毎年3〜4月には「お花見会」と称して、桜を見ながらお花見弁当をみんなで食べて、おしゃべりしています。大阪城公園にお花見に行ったり、病院敷地内の桜を見たりしています。

ほかには、乳腺外科医に「最新の乳がん治療」という題でミニレクチャーを開いたり、理学療法士に依頼して参加者みんなで軽くりハビリをしたり、薬剤師から薬のレクチャーをしてもらったりしました。クリスマスの時期に、アロマセラピストに来ていただきみんなでアロマキャンドルを作ったこともあります。また、無地の磁器に好きな柄の転写紙で絵付けをし、自分だけのデザインの食器を作る「ポーセラーツ」をワイワイみんなで作成しました。

ハンドメイド作品の会の時は、みなさん童心に帰って、あーでもないこーでもないといいながら楽しく作成しています。



ポーセラーツ

思えるかも
あるかもしれません
かも…

そんな、ちょっといいことがあればと思い、
この会を企画しています



松下記念病院

登録医の紹介

かかりつけ医とは?

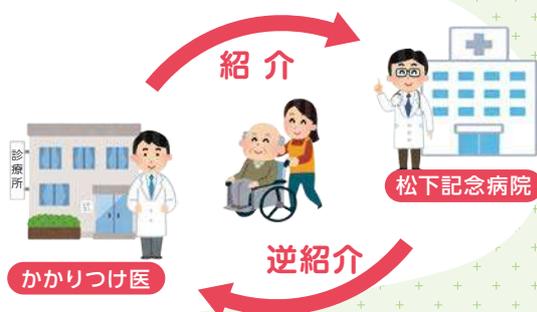
病気やけがをした時すぐに診てもらえ、あなたのお身体や、ご家族のこと、その他困ったことを気軽に相談できる身近な「お医者さん」です。日頃から健康状態をよく知ってくれているので、病気の早期発見・治療ができ、必要な場合には 専門の医師や病院を紹介してもらえます。

登録医制度でさらなる連携強化

松下記念病院には登録医制度があり、約500名のかかりつけ医師、歯科医師に登録いただいています。登録医の先生とは日常的に連携をとり、患者さまが専門的な治療を必要とされる場合にはいつでもお引き受けする体制を敷いています。



スマートフォンから検索できます。



医療法人 整形外科せいのクリニック 整形外科

古川橋駅近くのルミエールホール向かいに位置しています。院長はガンバ大阪の専従チームドクターとしてトップアスリートをサポートした経歴をお持ちで、パナソニックとは深い繋がりがあります。

特徴

『運動器の専門家』整形外科専門医が、様々な痛み・しびれに対して診療いたします。お子さまから、ご高齢の方まで骨・関節・筋肉・靭帯・神経の病気やケガを的確に判断し、患者さまにとって適切な治療をご提案させていただきます。また一般的な整形外科疾患のみでなく、スポーツによるケガや障害などの治療・リハビリにも対応しています。スポーツ整形に精通するスタッフとともに競技復帰までを支援する体制を整えています。

患者さまへメッセージ

患者さまの悩みや疑問がどんなに小さくてもしっかりくみ取り、その気持ちを理解し共感して一緒に前に進んでいく、そんなクリニックをめざしスタッフ一同取り組んでいます。生まれ育った門真の地で、地元の皆さまが毎日より輝く笑顔になるようサポートさせていただきたいと思ひます。



院長 清野 大輔先生



門真市末広町 31-10 サンコオア第2ビル 1F / TEL : 06-6780-3970

むらかわ内科

内科・循環器内科・腎臓内科

門真市や寝屋川市に隣接する守口市大久保町で、2019年に開業されたクリニックです。とても落ち着いた雰囲気の院内は明るく広々としています。



院長
村川 紘介先生

特徴

循環器専門医として循環器疾患をはじめ、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病にも対応いたします。地域の身近なかかりつけ医として、早期治療はもちろんのこと、予防医療も重視しています。副院長が腎臓専門医ですので健診でタンパク尿や血尿などといわれた方も早期から適切に診療を行っております。また往診や訪問診療、オンライン診療にも対応しておりますのでご相談ください。

患者さまへメッセージ

地域の頼れるかかりつけ医をめざしています。「疾患をしっかりとご理解いただき、安心・満足につながる治療を行う」をモットーに、患者さまとのコミュニケーションを大切にしたいと考えています。しっかりと話を伺い、わかりやすい言葉で病気の状態をお伝えし、十分な説明と治療を行います。必要時には近隣の病院と連携を図り対応してまいります。お気軽にご来院・ご相談ください。



守口市大久保町 5丁目 68-9 エクセレントコート 103号 / TEL : 06-6995-4749



医療法人隆生会 やすだ泌尿器科クリニック

泌尿器科

大きなガラス張りの建物、古川橋メディカルプラザの3階に開院されています。たくさんの観葉植物が置かれ、アットホームで落ち着いた院内は泌尿器科というイメージとは大きく異なる印象を受けます。



院長
安田 宗生先生

特徴

泌尿器科専門医が排尿(頻尿・尿失禁など)、血尿など尿について、膀胱炎などの尿路感染症、前立腺に関すること、尿路のがん、お子さまのおねしょなど泌尿器科に関する幅広い分野で診療いたします。また泌尿器科への受診に抵抗をお持ちの女性の方も多くいらっしゃるかと思いますので、当院では女性専用の待合スペースを設け、プライバシーにも配慮しています。

患者さまへメッセージ

お一人お一人の不調・不安など症状をしっかりと伺いし、最適な診断・治療を行うことで、患者さまの生活の質がよくなるように努めます。関連病院と密に連携し地域に密着したクリニックとして診療を行っていきたく考えています。「トイレが近い」「尿失禁で困っている」などでお悩みの方はぜひご相談ください。



門真市垣内町 12-32 古川橋メディカルプラザ 3階 / TEL : 06-6967-8406



お問い合わせ先：患者支援連携センター 平日 月～金 8:30～16:45 06-6992-1231 (代表)

がん相談支援室は、当院に通院・入院中の患者さま・ご家族さまに限らず、地域にお住まいの方の相談にも対応しています。

相談方法は「対面での面談」または「電話相談」となり看病などで自宅を空けにくい方も利用しやすくなっています。

- がん相談支援室をご存じない方(利用したことがない方)
- 利用したいと思っているが、敷居が高いと感じられている方
- 漠然とした不安を抱え、相談してもよいのかと悩んでいらっしゃる方

等に、身近に相談ができる窓口があることを知っていただくために、がん相談支援室を活用された方々の相談内容の一部をご紹介します。



2020年8月の相談内容



● がんの治療について

- 治療をした方がよいのか
- 治療をする前に他の先生に話を聞きたい(セカンドオピニオン)等

● ホスピス・緩和ケアについて

手術・抗がん剤治療・放射線治療等の積極的治療を行いながら、治療に対する症状緩和を目的とした相談や積極的治療後に疼痛緩和や症状を和らげるための専門病棟として位置づけられている「ホスピス・緩和ケア病棟」等についてのご相談があります。

当院は緩和ケア病棟(16床)を所有していることから

- 緩和ケア病棟はどのようなところ
- どれくらいの期間入院できるのか
- 入院の流れについて教えてほしい等のご相談があります。

● 日常生活について 食事・服薬・入浴・運動・外出

- 抗がん剤治療の副作用による味覚障害や嗅覚障害が出た時に食べやすいもの
- 吐気が強く、食欲がない場合にどのようなものを食べればよいのか
- 栄養剤はどのようなものがよいのか
- 体力の低下が気になるがどのような運動をすればよいのか
- 手術後の浮腫みにどう対応すればよいのか

がん治療を行うことで変化をきたした日常生活において実践できる工夫や留意すべき事へのご相談が多く寄せられています。



がん罹患されている患者さま・ご家族さまの不安や心配が少しでも軽減できるよう多職種でご支援させていただきます。悩みを抱えこまず、気軽にがん相談支援室へご相談ください。匿名でのご相談も可能です。

相談窓口：がん相談支援室 (がん相談支援センター)

相談方法：電話・対面面談
月～金 9:00～16:00(土・日・祝日休み)

06-6992-1231 (代表)

広報誌「らいふ」アンケート

所要時間は
2分です!



この度、松下記念病院 季刊誌「らいふ」について今後、より良いお知らせや情報を提供することを目的として、アンケートを実施することになりました。

左のQRコードからアンケートにお答えいただき、率直なご意見・ご要望をお聞かせください。

なお、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

